



14、15歳少女まで拉致、監禁

# 少女時代に時を戻して

元慰安婦提訴 いま60代沈黙破る

十代の少女は既に六十代となった。半世紀の沈黙を破り実名をあげたフィリピン元「慰安婦」十八人が、日本政府を訴えた。慰安状態のなかで、家族を殺され、あるいは性をつきつけられて通行され、レイプされた。今訴えるのは「戦争で何が起きたかをきちんと伝え、二度と繰り返さないようにしたいから」。日本の女性には友情を感じるといふ。

が、ほかの女性と結婚して、子供をもうけた。慰安婦の経験は、彼女たちの人生に深く刻み込まれた。フィリピンでは、慰安婦の経験は、彼女たちの人生に深く刻み込まれた。フィリピンでは、慰安婦の経験は、彼女たちの人生に深く刻み込まれた。

外務省はよくない。また、同じことが繰り返される心配がある。戦争が起きて被害を受けるのは女性と子供。二度と戦争が起きないように祈っている」と述べた。

また、フィリピン・ボラスさん（66）は「日本政府に正義の実現を求める最後の機会」と思っている。この裁判がたかめなら、もう正義を信じられなくなる」と訴えた。東京4・2ク

## 「比人元慰安婦も生活支援」

集団提訴で河野官房長官

河野平官房長官は二日の記者会見で、フィリピン元「慰安婦」が集団提訴したことに関連し「何らかの形で反省の気持ちを示したい。韓国の元慰安婦の方々と同時に、フィリピンの元慰安婦の方々にも同じ気持ちを持っている」と述べ、生活支援のための基金などの創設をうける方針を明らかにした。しかし、その韓国の元慰安婦について「一國別に気持ちを表す」と述べるにとどまった。

毎日4・3



## 「私は許せない」

原告2人会見

開庭後、原告を代表して来日したマリヤ・ロサ・ヘンソンさん（66）とフィリピン元「慰安婦」ボラスさん（66）は記者会見した。地下壕（ごう）に八カ月閉じ込められたボラスさんは「慰安婦」として過酷な少女時代を過ごし、生き残った。そして、「私は許せない。日本政府が『正義』を実現させなければ、正義というものが信じられなくなる」と訴えた。

開庭で止められ、駐屯地に通行された。見張りがつき、拒めば殺される状況のなかで、昼も夜も日本兵の相手させられた。母のいのちを奪った。村は破壊された。彼女自身も殺された。五十年たった今も、私の心はまだ痛んでいる。頭を鉄板に打ちつけられ、二カ月意識が戻らなかった。

「私はひどく年をとってしまひ、はじめは弱らしてしまひ、補償も必要だ。けれど、もしもできるなら、一番してほしいことは、時を戻すこと。私は少女時代に戻りたい」

### 原告の訴えの例

69歳 夫は日本軍の捕虜になり、脱走。通報で逮捕され、原告の目の前で、逆さづりになされるなどの拷問を受けた。原告は独房から小部屋に連れ出されて連日暴行されて妊娠、出産。再婚した。

64歳 深夜家に日本兵が侵入。抵抗した父を殺し、原告を引きずり出した。駐屯地近くに監禁されてレイプされた。独身。「慰安婦」調査に名乗り出たため、毛布を剥ぎ取られ、裸でたたかれた。

65歳 日本軍が原告の家族ら村民50人ほどを集め、家族らを殺した。妊娠間もなかった原告は、駐屯地に連行された。

66歳 日本軍が原告の家族ら村民50人ほどを集め、家族らを殺した。妊娠間もなかった原告は、駐屯地に連行された。

「私はひどく年をとってしまひ、はじめは弱らしてしまひ、補償も必要だ。けれど、もしもできるなら、一番してほしいことは、時を戻すこと。私は少女時代に戻りたい」

「私はひどく年をとってしまひ、はじめは弱らしてしまひ、補償も必要だ。けれど、もしもできるなら、一番してほしいことは、時を戻すこと。私は少女時代に戻りたい」

毎日4・3

在住の婦  
城慰安  
宮元

## 公式謝罪求め提訴

### 在日韓国人として初めて

戦前、旧日本軍の従軍慰安婦となり、非人間的な扱いを受けたとして、在日韓国人の宋神道さん（左）が、日本政府に公式謝罪を求め、訴訟を東京地裁に起こした。

慰安婦となり、非人間的な扱いを受けたとして、在日韓国人の宋神道さん（左）が、日本政府に公式謝罪を求め、訴訟を東京地裁に起こした。

慰安婦となり、非人間的な扱いを受けたとして、在日韓国人の宋神道さん（左）が、日本政府に公式謝罪を求め、訴訟を東京地裁に起こした。



支援グループの代表らとともに提訴の心境を語る宋神道さん

「金は要らない  
謝ってほしい」

宋さん意見

「金は要らない。慰安婦に相応の謝罪を求めている。謝ってほしい。宋さん意見」

「金は要らない。慰安婦に相応の謝罪を求めている。謝ってほしい。宋さん意見」

に「韓世、原告が受けた精神的、肉体的苦痛は消し去ることではできないが、日本の謝罪を心から謝罪する」との公式謝罪を求めている。

慰安婦をめぐって、韓国政府が平成二年に一人当たり二千万円の補償を求めて提訴したのをきっかけに、今日二日にはフィリピンの元慰安婦が同様に補償を求めて訴えている。

「金はいらない。慰安婦に相応の謝罪を求めている。謝ってほしい。宋さん意見」

「金は要らない。慰安婦に相応の謝罪を求めている。謝ってほしい。宋さん意見」

「金は要らない。慰安婦に相応の謝罪を求めている。謝ってほしい。宋さん意見」

フィリピン人と在日韓国人

元従軍慰安婦、日本で握手

「さぞつらかったでしょう。日本軍の従軍慰安婦にされ深い傷を負った、人と在日韓国人の女性が六と日本政府に対し、謝罪や、東京都千代田区の衆議院議員会館で初めて顔を合わせた。半世紀の空白を経て、名乗り出た女性たちは、お互いの痛みを思いつて手をとり合い、戦時下に強いられた「犠牲」に憤っていた。対面したのは、フィリピン人のマリア・ロサ・ヘンソンさんと、在日韓国人の宋神道さん（左）とボラスさん（右）。



在日韓国人の宋さん（中央）とヘンソンさん（左）とボラスさん（右）

議員会館で初めて顔を合わせた。半世紀の空白を経て、名乗り出た女性たちは、お互いの痛みを思いつて手をとり合い、戦時下に強いられた「犠牲」に憤っていた。対面したのは、フィリピン人のマリア・ロサ・ヘンソンさんと、在日韓国人の宋神道さん（左）とボラスさん（右）。

ヘンソンさんは二日の提訴後、札幌など各地の支援集會に参加してきた。五日に提訴した宋さんは「これからは力を合わせ、日本に誠意ある謝罪を求めたい」と話した。

毎日4・1





女性情 193年5月號

## 慰安婦連行の 事実認める意向

渡辺外相が表明

渡辺外相と韓国の韓界外相との日韓外相会談が一日、外務省飯倉公館で約一時間行われた。

この中で渡辺外相は、慰安婦問題について「日韓国民の心にしこりが残らないよう解決に努力している」と強調、日本側として強制連行の事実があったことを何らかの形で認め、最終的な決着としたい

意向を伝えた。

日本政府が進めている慰安婦問題調査の結果の公表時期については「できるだけ早くしたい。その際、日本政府の考え方を併せて申し上げたい」と述べ、元慰安婦の生活保護のため基金設立なども併せて発表する考えを明らかにした。

東奥4・2

## 元慰安婦の支援 韓国が法案決定

【ソウル10日時事】韓

国政府は十日、元慰安婦支援の補償を要求しない」という金泳三大統領の意向を本軍の慰安婦に対する生活安定支援に関する法律「案」を正式に決定した。今月末に開かれる臨時国会に提出、成立させたいと、今年後半から施行する予定。

同法案は「日本に対し物質的補償を要求しない」という金泳三大統領の意向を本軍の慰安婦に対する生活安定支援に関する法律「案」を正式に決定した。今月末に開かれる臨時国会に提出、成立させたいと、今年後半から施行する予定。

対象となる元慰安婦生存者は現在百四十人だが、再申告期間を設けるため、実施時には約一百人に達すると推定される。

読売4・11

## 聴取人数など 日韓が対立

元慰安婦の証言

【ソウル31日時事】日本政府は従軍慰安婦問題の真相調査の一環として四月中旬に韓国元慰安婦からの証言聴取を予定しているが、これに関連して韓国外務省幹部は三十一日、日本側が対象者を十人に限定し、その人選を韓国側に一任していることを明らかにした。一方、韓国外務省から人選の相談を受けた韓国挺身隊（ていしん）隊員関係者協会は、百三十五人の生存者全員の対象とし、日韓両国の専門家が立ち会うことを要求。証言聴取の対象方法をめぐって対立が表面化している。

京報4・1

## 日本の慰安婦 調査に反対

韓国の協議会

【ソウル9日青木隆彦】韓国でい身障問題対策協議会（尹貞玉氏ら共同代表）は九日までに、声明を通じて日本政府が韓国内で計画している元慰安婦から聞き取り調査に反対する立場を公式に明らかにした。

この調査は、従軍慰安婦問題の真相調査の一環として、募集にあたって強制的な要素があったらどうかを

北海道4・11

## 軍事郵便局の 台帳も調査へ

### 慰安婦問題で政府

政府は十二日、従軍慰安婦問題の真相究明について、郵政省に保護されている「野戦軍事郵便局台帳」を調査対象に加える方針を固めた。同台帳から元慰安婦の全休人数を推定できる

として、韓国の関係団体は調査を求めている。

この要求に応ずること

河北4・14

## 「慰安婦」究明 梶山氏に要請

韓国大統領

【ソウル20日共同】韓国訪問中の自民党の梶山幹事長は二十日午後、ソウル市内の大統領官邸（青瓦台）に金泳三大統領を表敬し、二国間問題を中心に意見交換した。

（一面に関連記事）

大統領は日韓間の懸案で

河内4・21

ある戦争中の従軍慰安婦問題について「ありのままの事実の姿を明らかにすること、未来志向の関係構築のきっかけとなる」と述べ、日韓間の新たな友好関係の発展点とするために真相究明を改めて強く要請した。

梶山氏は「従軍慰安婦問題解決のため最大限の努力をする」との宮沢首相の親身な手紙とともに「誠意をもつてしかるべく対処するよう方法を考えたい」と述べ、自民党としても政府と一体となって真相究明に力を入れることを約束した。

河内4・21

## 韓国人元慰安婦への 聴き取り調査保留

政府筋

政府筋は二十一日朝、野次大戦中の従軍慰安婦問題に関し

日経4・21夕

て、韓国人元慰安婦への聞き取り調査の開始を保留する考えを明らかにした。韓国の市民団体が「調査の終了で問題は解決した」と日本政府が処理することを求め、聞き取り調査に反対しているため。同筋は文獻での調査は「引き継ぎたい」としている。自民党の梶山幹事長は韓国訪問時の金泳三大統領との会談で、真相究明要求に「全力で努力したい」と約束していた。

# 日韓の賢人会議構想

## 「慰安婦」など解決探る

新駐日大使 唱  
新提

【ソウル23日】小田川 四 韓国の孔哲明・新駐日大使は二十三日、朝日新聞記者に対して、日韓の相互理解と懸案解決のため、両国首脳による民間フォーラムづくりを日本側に呼びかけることを明らかにした。

金泳三大統領が強調する「米米志向」の日韓関係構築に向けて、新たな日韓手ヤンネルをめざす構想だ。孔大使は二十八日に赴任の予定で、「戦後処理懸案に早くケリをつけて、両国関係が相乗効果を生む協力の道を探りたい」との意欲を示した。

日韓フォーラム構想は新たな賢人会議づくりをめざす。盧泰愚政権下で設置された「日韓21世紀委員会」や、日韓議員連盟などのパイプとは別に、韓国文民政の日韓関係増進への意欲を反映する布石といえた。

これに関連して孔大使は、日本側が政府と支援団体の合同で元従軍慰安婦の聞き取り調査をするよう、日本政府に打診したいとの意向も、同日の日本人記者団との会見の席で表明した。

孔大使は日米の「下山会議」を例に挙げ、両国の歴史教科書問題の改善、戦後処理懸案の解決などについて自由に議論する必要性を強調した。

韓山氏は高麗首相の意向として、大統領が早期訪日し、両国の懸案のアジア情勢などを話し合うよう招請したのに対し、大統領は謝意を表明しながらも「タイミングなどについて具体

## 市民団体と共同で 慰安婦調査実施を

韓国の新駐日大使

【ソウル24日】韓本秀夫 今月末に日本に赴任する韓国の孔哲明・新駐日大使は二十三日、日本人記者と会見した。従軍慰安婦問題解決に向け、日本政府が予定している被害者からの現地聞き取り調査に、市民団体「韓国挺身隊問題対策協議会」が反対している問題について「日本政府が、市民の共同調査の形で行えば受け入れられる

のではないかと提言した。孔大使は「最近、市民団体のメンバーに会ったが、日本政府が調査の際、客観的な立場をとるかどうかが、と懸念的だった。日本側の対処の仕方に不快感や感情のものがあろう。日本側が、日本国内にあるこの問題の支援団体、支援メンバーと共同で行うなら調査を受けてもいい、との反応だった」と指摘し「日本の調査実施は一步前進と評価している。最後のところで間違いないように、と切に願っている」と期待した。

毎日 4・25

## 慰安婦聞き取り調査 韓国側に協力を要請

局長は、日本側が行っている従軍慰安婦調査は終盤段階だと説明した。

## 「ソウル26日石塚記者」

これに対し局長は、本人が望むなら、韓国政府と

訪韓中の池田雄・外務省アジア局長は二十六日、韓国外務省で金炳宇・アジア局長と従軍慰安婦問題などについて会談した。

韓国側によると池田局長はこの席で、日本政府が韓国在住の元慰安婦に対し、真相調査のための聞き取り調査をする意向であることを明らかにし、韓国政府に協力を要請した。また池田

局長は、その後、何種類か発見しても可能な限り調査に協力すると述べた。韓国側が真相究明に役立つような新たな事実がみつかるかと、池田局長は日本政府は昨年、第一次調査結果で公表した以外の資料を、中国・27

## きょうから慰安婦調査

国際法 資料収集や証言聴取

旧日本軍による従軍慰安婦問題で、非政府組織(NGO)の国際法専門家委員会(本部・ジュネーブ)が日本に調査委員を派遣し、二十三日から実地調査を始める。政府関係者、真相究明を進める学者や民間団体から事情聴取り、当時の資料の収集に当たる。調査結果は五月の国連人権小委員会に報告される予定で、それを基に慰安婦問題の本格的討議に入るとみられる。

派遣されたのは、オーストラリアのゴボール研究員とインドのスネハル・バラヤッパ弁護士(本部・ジュネーブ)が、日までの日程で、慰安婦の徴用や連行方法、戦後の慰安所調査、補償の有無などを調べ、二十四日には東京都内で、民間の女性グループなど慰安婦問題に関わる団体や個人と集会を開く。

委員会はすでに十九日から三日間、フィリピンで現地調査を行っており、日本で調査の後、二十八日から三日間、韓国で被害女性らから証言を聴く。報告書は五月中旬にまとめ、ジュネーブで開く国連人権小委員会の代議院問題作業部会に提出する。

国際法専門家委員会は一五二年設立。弁護士や法律家や歴史学者、世界各地で起きている人権侵害の調査に取り組んでいる。八八年には日本の精神医療の改革に関する調査報告を公表、同年七月施行の精神衛生法改正に大きな影響を与えた。

毎日 4・23



フィリピン元慰安婦  
婦十八人が二百、日本政府  
相手に損害賠償を求める訴  
えを東京地裁に起こした。

ひと93

元慰安婦らが家族にもひた  
隠しにした過去を打ち明け  
る契機は、昨夏のラジオ放  
送だった。  
調査代表としてマイク

初来道した比従軍慰安婦調査委員会代表

ネリア・サンチョ・リアオさん



バナイ島出身。国立フ  
ィリピン大中退。昨年ま  
で2年間、最大の革新市  
民連合「バヤン」代表。  
ケソン市在住。夫と1男  
1女。41歳。

を握り「被害は恥でない。  
勇気を持ち名乗り出て」と  
呼びかけた。

ことが多い。彼女たちが少  
しずつ口を開き始めたの  
は、自己を回復するために  
二人になった。補償は  
「急務」と、日本側  
の迅速対応を求める  
。期待されるのは日  
日本軍だけでない  
い、とする日本国  
内の不誠があるの  
も承知だが、「戦  
争犯罪は当中国  
(日本)の政府に  
働きかける」と切

## 「物」扱いへの怒り

原告の二人とともに四  
五の両日、札幌、函館、青森、秋田、山形、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、徳島、高松、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、大分、熊本、鹿儿島、沖縄の各都道府県を巡回し、各地の慰安婦問題の被害者や関係者、市民らと会話し、意見を聴き、訴えを提出した。

「慰安婦はシステム化さ  
れたレイプで人間の尊厳へ  
の犯罪。個人に謝罪すべき  
」との思いで、先に宮城首相  
へ手紙を送り「世界が日本

り返す。  
「慰安婦はシステム化さ  
れたレイプで人間の尊厳へ  
の犯罪。個人に謝罪すべき  
」との思いで、先に宮城首相  
へ手紙を送り「世界が日本

## 人間の尊厳に対する犯罪

の対応に注目している」と  
指摘した。それだけにカン  
ボジアへのPKO派遣に半  
世紀前がダブる。原告の一  
人は、その報道で、名乗り  
出る決心をした。  
ミス・フィリピンだった  
七〇年に初来日。「社会問  
題に全く関心なかった」  
女子大生が、友人が次々に  
政治犯として逮捕されて民  
衆運動に身を投じた。二年  
間の投獄生活も経験。二十  
年後の今、アジアでも著名  
なNGO(非政府組織)活  
動家。「物」のように女性  
や子供を扱う社会」への怒  
りが持続する。  
(国語・報道部 須佐史博)

北海道4・7

## 「慰安婦」の解決は全アジアで

日本人としてた一人、その体験を語り  
伝えてきた元慰安婦がなくなった。

先月のひなまつりの日、七十一歳だっ  
た。同半島の先鋒にある施設で、内臓を  
ぼろぼろに病んではいが、穏やかな死に  
別れたといふ。

太平洋戦争の末期、日本から四千、離れ  
たパラオ諸島で、朝鮮半島から連れてこら  
れた少女たちと兵士の相手をさせられた。  
やっとの思いで帰国したが、そのまゝ異国

の土地にたどり着いた。彼女が訴えて、施設  
の真の内幕、  
「嘘(あま) 従軍慰安婦」の碑が建っ  
たのは、戦後四十一年目の夏である。  
除幕式の日、車いすから海の方を見  
つめながら、「ジャンクルなんかいいない  
で、みんな帰っておいで」とつぶやいたの  
を周囲が聞いていた。

亡くなる前、このところの慰安婦問題の  
広がりを、とても喜んでた。ようやく、  
の目は主に韓国に向けられてきた。

「慰安婦」が広がっていることが明らか  
になっていくが、それにもかかわらず、政府  
の目は主に韓国に向けられてきた。

「こんな悲しい碑は、二つと知らない  
よ」。亡くなった元慰安婦のこうした言葉  
にこたえなければ、と思ふ。

毎日4・4



# 記者の目

## 従軍慰安婦問題



明珍 美紀  
(社会員)

日本人だからこたわる

でもこのおぼろげな声を聞くと、加害者の人間としてしっかりと受け止める必要はない、と思ってしまう。

戦争中、民族差別と女性差別の二重の重荷を背負った人たちが、自分たちの「過去」を公にしようとする。私たちが「古傷」に目を向けるわけには、いかない。

韓国にいてフィリピンで名乗り出た四十四人の元慰安婦のうち、十八人が二日、東京地裁に對し賠償請求訴訟を起こした。五日には在日韓国人の提訴

あさんたちは何歳か、マニラの日本大使館前をデモし、機会あるごとに記者会見を行い、世論に訴える。半世紀の間、封じ込められていた思いが一気に噴き出ていた。地方に住む女性も、運動に加わるために家財道具を売ってまでやって来る。

慰安所があったバナイ島で会ったトマス・サリノグさん。彼は、「私をアタのように扱った日本人を思い出すと胸が張り裂けそうになる」と胸を張った。だが、意外だったのはその女性も、日本人の私を見る前に、

ほとんど敵意を感じさせないことだ。キリスト教の国だからだろうか。昨年九月、名乗りを上げ、原告の一人になったマリア・ロサ・ヘンソンさん。私は私が日本を許さないならば、きつと補償は私をお許しにならない」と思っていた。きつとさうだ。

三月二十三日の参院予算委員会で、同野党議員は慰安婦問題の被害女性から聞き取り調査をすることを明らかにした。慰安婦に対する「強制」の事実を認める方向だという。

これまでに被害の償いよう性に関する疑問があるという理由で「聞き取り調査は行わない」として、たのに慰安を認めたのは「賠償を求めない(韓国側への配慮)」といわれている。

### 「個人」にも配慮を

内閣府が発表した「慰安婦問題」によると、フィリピンでも同様の調査を行う方針だ。しかし、補償問題については「すでに国家間条約で解決済み」との答えが返ってくる。

慰安婦問題に詳しいノンフィクション作家の川田文子さんは「政府がこれで決着がついたとするなら、あまりにも性急だ。まだ始まったばかりです」と話す。「金ばらまき」が明らかになっていない以上、調査は当然だ。アジアの国々の信頼を回復するには事実を直視し、個人への補償問題に「きつとさう」と指摘する。

バナイ島イロイロ州に住むロルダス・デビナ・グラシアさん(60)のことを紹介したい。

グラシアさんは戦争で働き去りにされた日本人孤児兄妹をずっと育てていた。それも自分を連れ、監禁された日本の男性が妻との間に授けた子供を。戦後、同国人の夫(故人)と結婚、六男一女をもうけたが「夫には日本の子供を産んだ」と伝え、家族にもずっと事実を秘めてきたという。苦しい生活の中で、日本人の子供もわが子と育ててきた。その日本人の子供が、一家の生活を支えている。

## まず「強制」の事実認めよ

もあつた。

### 補償うやむやにせず

その一方で韓国政府は三月「日本に物質的補償は求めない」とする見解を打ち出し、「道義上の問題」として真相究明だけを求めている。しかし日本政府が、これを被害者の感情軟化と受け止め、補償問題もそのうちうやむやになるのではないかと



「慰安所」に使われていたフィリピン・アンヘレスの中央銀行で、当時の写真を前に話してくれた原告の一人、ヘンソンさん

「私は命を代えて日本人の子供を守った。日本は戦争で被害を受けた我々に何をしてくれるのか」。グラシアさんはこう訴えた。

「日本政府に謝ってほしい。ただそれだけ」。東京地裁に提訴した在日韓国人の元慰安婦は、こう求めた。多くの資料が示している、強制連行の事実を認め、謝罪する。これがわが国がまずやらなければならないことだ。

「赦されてほしくない苦痛」を作ったのは、だれでもない、日本人だから私は、こたわる。

「記者の目」を続けた感想、ご意見を400字程度にまとめ毎日新聞本支社記者の目録へ。

毎日4・16